

地下鉄烏丸線

可動式ホーム柵の全駅設置

及び

四条駅の阪急連絡通路への

エレベーター新設

I.地下鉄烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置

1 可動式ホーム柵設置事業を全駅設置を目指して再開します！

現在の設置状況

現在、烏丸線（全15駅）では、乗降人員の多い、京都、四条、烏丸御池、北大路駅に可動式ホーム柵を設置しています。

※東西線（全17駅）は開業当初の平成9年10月からホームドアを設置済み

〈参考〉これまでの可動式ホーム柵設置の経過

- ・平成26年12月 烏丸御池駅
- ・平成27年10月 四条駅
- ・平成27年12月 京都駅
- ・令和5年1月 北大路駅

コロナ禍前の設置計画

可動式ホーム柵の烏丸線全駅設置については、ATO設備（自動列車運転装置）を整備したうえで、令和10年度中に設置を完了する計画としていましたが、新型コロナウイルスの影響による危機的財政状況を踏まえ延期していました。

安全を第一に考え事業を再開

ホームの安全性向上が重要かつ喫緊の課題であることから、コロナ禍からのお客様数の回復に伴う本市地下鉄事業の財政状況の改善を踏まえ、延期していた事業計画を進めてまいります。



I .地下鉄烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置

2 乗務員による手動開閉で導入スケジュールを大幅に短縮しました！

計画を抜本的に見直し早期設置を実現

当初は、列車の運行時間を守るため、A T O設備（自動列車運転装置）の整備と可動式ホーム柵の設置時期を合わせ、自動運転と自動開閉により運用する計画としていましたが、「ホームの安全性向上」に最も有効な**可動式ホーム柵の早期設置を最優先に、A T Oによる自動開閉によらず、設置済みの4駅と同様に乗務員による手動操作で運用を開始**します。

これにより、全駅供用開始のスケジュールを、A T O設備の整備を前提とする計画では完了予定が令和18年度末であったところ、令和12年度半ばとし、**6年半の期間短縮**を図りました。

運行への影響は最小限に

可動式ホーム柵設置駅の拡大に当たっては、手動操作に要する時間の増加を見込み、各駅の停車時間を1駅あたり約10秒延ばす必要があるため、当面は、国際会館駅から竹田駅までの運行時間が約2分（約10秒×11駅）延びます。（現行27分→29分）

現在、ラッシュ時間帯は所有する車両をフル活用しているため、運行時間が延びると車両が不足し、運行本数の確保が困難となりますが、「竹田駅での折り返し時間の短縮」や「相互直通列車を含めたダイヤ全体の調整」を行うことで、**現在の運行本数を維持**します。

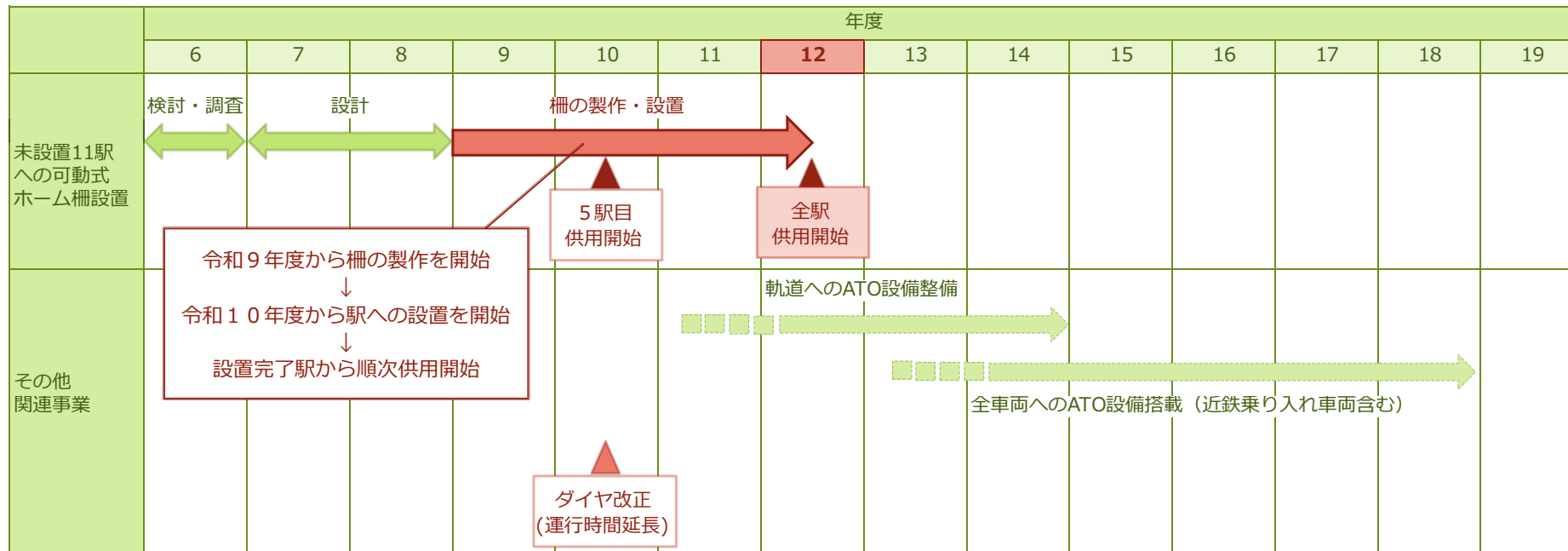


I.地下鉄烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置

3 可動式ホーム柵設置スケジュール

- ・令和7～8年度 設計
 - ・令和9～12年度 可動式ホーム柵の製作～設置
- 令和10年度から順次供用を開始、12年度上半期に全駅で供用開始

※竹田駅については、地下鉄線が使用する2・3番線ホームに設置



I .地下鉄烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置

4 概算事業費

国等の補助制度も活用し設置

- ・可動式ホーム柵（1 1 駅分）4 5 億円



Ⅱ. 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設

1 長年の懸案であった四条駅の阪急連絡通路にエレベーターを設置！

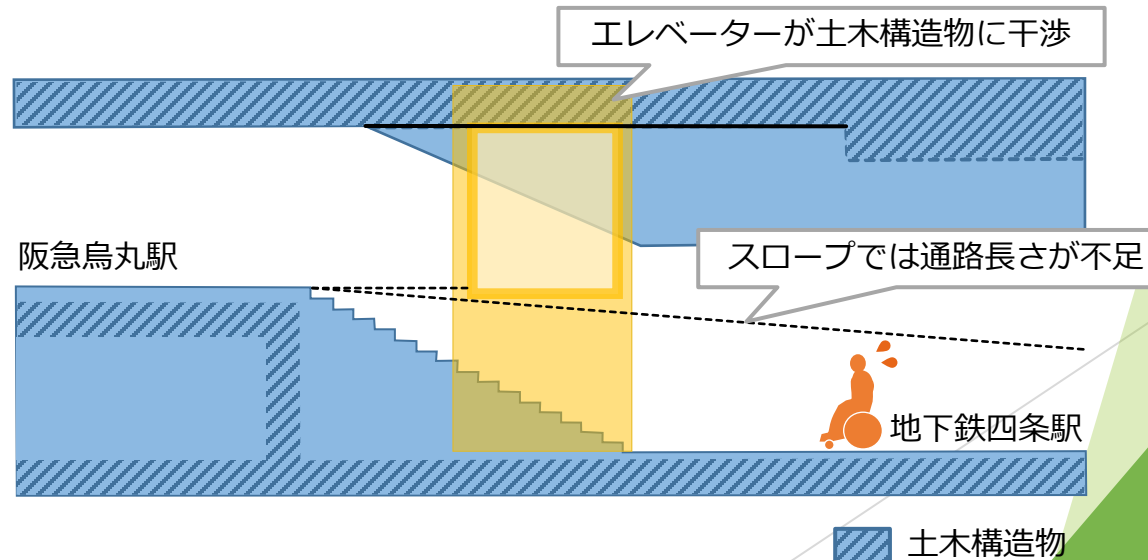
現在の状況と課題

四条駅は、京都市内の中心部に位置し、1日当たり約10万人のお客様が乗降される市営地下鉄の主要駅で、阪急京都線と乗り継ぎをされるお客様も多数御利用されています。

四条駅と阪急烏丸駅を結ぶ連絡通路には約2mの高低差がありますが、**物理的な制約**※があり、これまでエレベーターやスロープが設置できず、車いすやベビーカーを御利用のお客様などには、駅係員が操作する階段昇降機もしくは迂回するルートを利用いただき、御不便をおかけしていました。

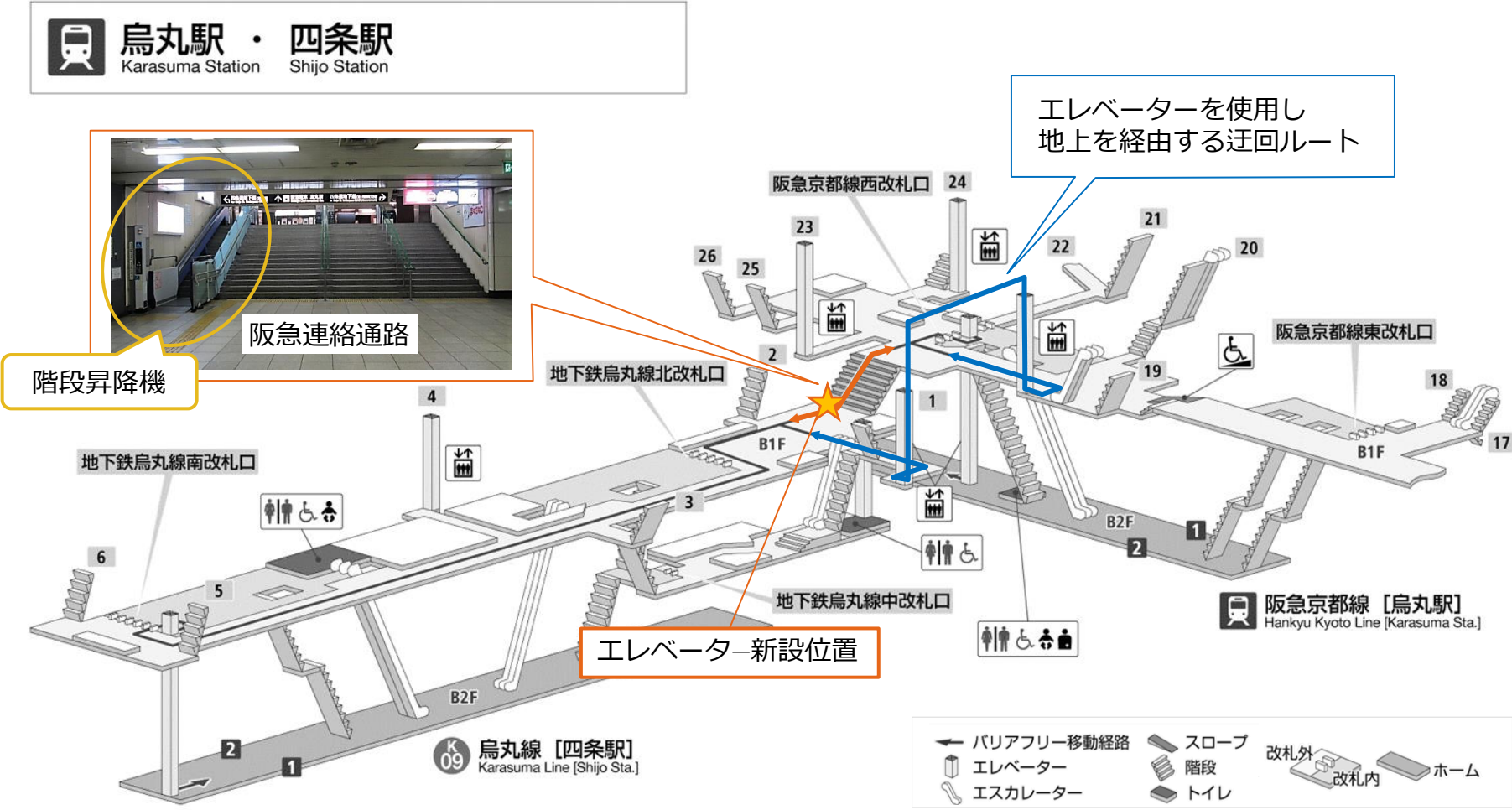
※連絡通路部の物理的な制約

- エレベーター設備を収めるスペース（高さ）がなく、スペース確保には、相当の費用と期間を要する土木構造物の大規模改修が必要
- バリアフリー基準を満たす緩やかな勾配のスロープを設置できるスペースがない



Ⅱ. 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設

(参考) 地下鉄四条駅・阪急烏丸駅構内図



構内図は公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団「らくらくおでかけネット」より引用、一部改編

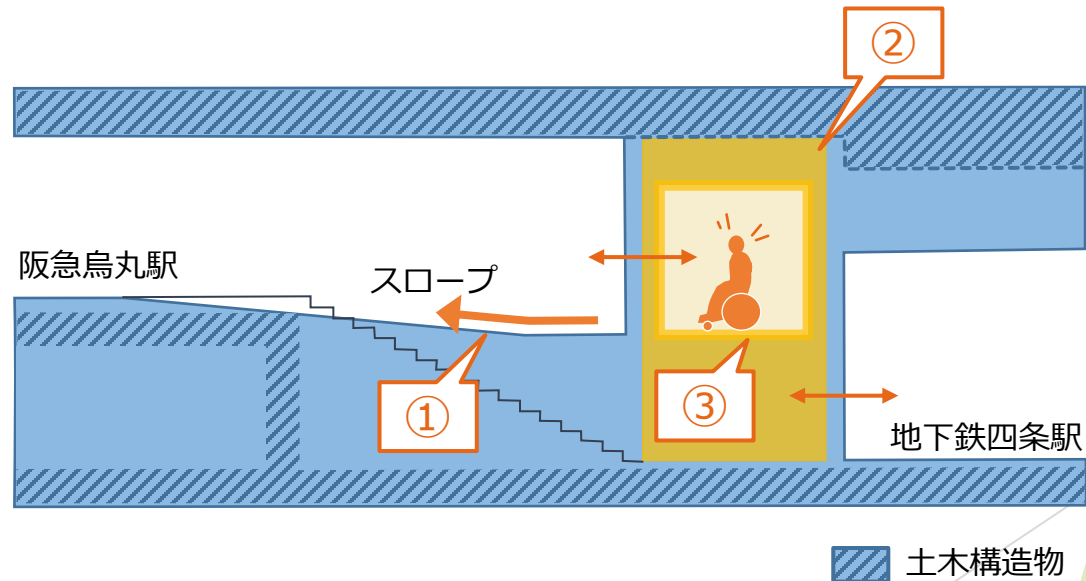
Ⅱ. 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設

技術と工夫で設置を可能に

長年の懸案を解決するため、エレベーターメーカーと協議を重ねた結果、**スロープや設置位置の工夫と特注のエレベーターの導入**により、大規模改修を実施せずとも設置することが可能となったため、連絡通路へのエレベーター設置に着手します。

主な工夫ポイント

- ① エレベーターが土木構造物に干渉しないよう、上階の出入口の床面を阪急烏丸駅よりも低くしスロープを設置
- ② スロープがバリアフリー基準を満たす緩やかな勾配となるよう、設置位置を可能な限り四条駅改札寄りに
- ③ ①②の工夫により確保したスペースに収まる小型のエレベーターを特注（バリアフリー基準を満たすサイズの11人乗り）



Ⅱ. 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設

2 エレベーター設置スケジュール

令和8年度末の運用開始を目指します

- ・ 令和7年度に設計を行い、完了後、速やかにエレベーターの製作、設置を行います。
- ・ **設置工事完了は令和8年度末**の予定です。

3 概算事業費

- ・ 設置費用（設計費を含む） 7千3百万円

